冬だ！冒険だ！北極サバイバルキャンプ　会場のみなさまから荻田さんへの質問！

北極への道のり

・北極を冒険しようと思ったら、どれくらいの費用が必要になりますか？

北極の中でもどこで何をするかで必要な予算は全く変わります。例えば、私が若い時から１０年くらい続けていたカナダ北極圏のイヌイットの村をつないで歩くような旅であれば、１００～２００万円くらいあればできます。それが北極点を目指すような冒険となると、２０００万円以上は必要になるでしょう。

・飛行機はどこに止まるのですか？

人が住む集落には必ず定期便が飛びます。物を運んだり、郵便を運んだりする必要があるからです。カナダやグリーンランドのイヌイットの村にも必ず定期便があります。北極点を目指す場合は無人のカナダ最北端の岬から出発するので、そこまで飛行機をチャーターして凍った海の上に、滑走路も何もない場所に飛行機が降ります。

・北極を一人で歩くのはさみしくないですか？誰かと一緒に行こうと思わないですか？

誰かと一緒に行ったこともありますが、一人で行く場合と複数で行く場合では、それぞれ面白さ、面白くなさが違います。複数の人数で行くのはドラマも生まれるし、話し合いながら計画を進めていく手応えもありますが、どうしても仲間がいる分リスクを分担してしまって、冒険に深く入り込めません。一人だと荷物もリスクも全てを自分で請け負う必要があるため、より集中して入り込めます。その都度で、行動に何を求めるかで一人なのかそうではないのかが決まると思います。ちなみに一人でも寂しさはあまり感じません。

装備はどうなってるの？

・100kg の荷物の内訳を教えてください。

食料５０kg、燃料１５kg、装備類（テントや寝袋等）２０kg、ソリ１０kg、熊対策の火器（ライフル等）５kg

・ジャンパーはどこの会社にを作ってもらったんですか。

POLEWARDS（ポールワーズ）というアウトドアブランドを持つザンターという会社さんです。南極観測隊の第一次隊から越冬服を作っていたりと極地との関わりと歴史の深いメーカーさんです。

・重～い荷物を乗せるソリは軽いんですか？どんな素材ですか？

ソリの重さ自体は１０kg ほどです。素材は幾つかありますが、高分子ポリエチレン、ケブラー繊維、グラスファイバーなどです。

・荷物を引きながら歩くとかなり汗をかくのでは？アンダーシャツなどはどんなものを使っていますか？

汗はかきます。私が愛用しているのは、ノルウェーのブリンジェというメーカーのアンダーウェアです。日本のアウトドアショップでは売っていません。

・忘れ物をしないための具体的な方法を教えてください。チェックリストを作っている？チェックの順番が頭の中に入っている？

チェックリストは作ります！大事ですね！

・食べ物はどうしているんですか？

冒険中は必要な物資は全てソリに積んで自分で引いて歩きます。食料もスタート時に用意したものを引いています。

冬だ！冒険だ！北極サバイバルキャンプ　会場のみなさまから荻田さんへの質問！

荻田さんの冒険を聞かせて！

・何を考えながら歩いていますか？

歩いている間は方角を意識したり、氷が割れていないか常に見ていたり、氷の動く音を聞いていたり、雲の動きが変わっていないか？天候が変化しないかを気にしていたり、と案外考えることやることも多いのです。でも、ただひたすらまっすぐ見えているものに向かって延々歩くということもあり、そんな時は「日本帰ったら何食べよう」「今夜のアルファ米はカレー味にしようかシチュー味にしようか」と大体空腹なので食べることばかり考えてます。それから、自分の人生を記憶の一番古いところから細かく思い出してみよう、と思って記憶を遡ってみたりしますが、案外すぐにいま現在までたどり着いちゃいます。いよいよ考えるネタも無くなってくると、何を考えようか？と考えながら歩く時もあります。

・一日で一番歩けた距離は？また、一番進めなかった距離は？

一日で一番歩けた距離は 32km かな？歩けなかったの、ひどい乱氷帯では一日で 2km なんてこともあります。

・吹雪で何日も動けなかったことはありますか？

あります。最高では４日かな？

・嬉しいときは？

天気が良い時へへ

・一番心に残っている景色、もしくは出会いは何ですか？

美しい景色、よりも、一番心に残っている景色は、北極点目指して歩いているときに北極海の薄い海氷の上をスキーをそうっと滑らせ、たわんでいまにも割れて落ちそうな状態でヒヤヒヤしている時でしょうか。恐ろしくて、いまでも北極海は恐怖の思い出しかありません。
現地の村で、イヌイットの人たちと出会い一緒に狩りに行ったり、トナカイの肉を囲んで一緒に食べたりするのはとても印象深く素敵な時間でした。

・一番感動したことは？

２００４年にグリーンランドの内陸無人地帯の氷床を２０００km 犬ぞりで縦断した時に、３０日目に飛行機の物資補給をもらいました。犬の食料や、我々（２人でした）の食料や装備を受け取ったのですが、その時に缶ビールをもらいました。犬ぞりというのは皆さん楽なイメージがあるかもしれませんが、犬を消耗させないために人間はソリに乗っている暇はありません。一ヶ月分のドッグフードや装備を積めば、ソリの重量は６００kg にもなりますそれを１５頭の犬と２人の人間で運搬します。３０日間、標高２５００m の氷床で、毎日４０～５０km 犬に並走して走り、しかも睡眠時間は毎日３～４時間という過酷な状況の後に、一ヶ月ぶりに飲んだ缶ビールは、気絶するくらいに美味しくて感動しました。いまだにあの時に飲んだ缶ビール以上の感動を味わったことはありません。

冬だ！冒険だ！北極サバイバルキャンプ　会場のみなさまから荻田さんへの質問！

動物のことを知りたい！

・ホッキョクグマの他にどんな動物に出会いましたか？

ジャコウウシ、アザラシ、トナカイ、ウサギ、ホッキョクギツネ、ホッキョクオオカミ、レミング（ネズミ）、オコジョ、ライチョウ、レイバン（ワタリガラス）といったところでしょうか。夏になると、たくさんの渡り鳥が南からやってきます。

・北極にはどんな虫がいますか？

陸地には、蚊、ハエ、小さな蝶などがいます。もっと南下してアラスカとかシベリアに行けばさらに豊富になるでしょうね。

・トドックは何を食べるの？

トドックの親戚のホッキョクグマさんたちはアザラシのお肉を食べてるけど、トドックは？

食べ物のことが気になる！

・1日の食事のカロリーはどれくらいですか。食事の回数は？

基準は一日５０００kcal です。朝と夜はテント内で火を使って温かいもの（お米、ラーメン、オートミール等）を食べ、日中は行動中に食べるものをジップロックのような袋に一日分ごとに小分けしたものを休憩ごとに少しずつ食べます。行動食は、自作のチョコレートバー、ナッツ、ドライフルーツ、ビスケット、といった内容です。

・テントの中でどんなものを作って食べますか？

乾燥食品をお湯で戻して食べる、という程度です。アルファ米を食べたり、インスタントラーメンやパスタ類、オートミールなどです。あとはたっぷりのバターは必須です。

・冒険のときのごちそうは何ですか？

体が疲弊してくると何を食べても美味しくなってきますので、特別なご馳走は用意しません。毎日同じものの繰り返しで２ヶ月過ごします。体が求めるものが一番美味しくなる（喉がカラカラの時に飲む水が最高に美味しいように）ため、カロリーの高いものがやはり美味しくなります。冒険中に体が痩せていった時に、バターを丸かじりした幸福感は当事者しか分からないかもしれません。

・「コレだけは切らせない」「絶対持っていく」日本食はありますか？

日本食とも言い切れないですが、やはり米は必ず食べますね。

・トナカイはブルセラ病や寄生虫に気をつける必要があると思いますが、生食の際の対策など教えていただければ幸いです。

トナカイの肉はそのまま生食することはありません。火を通すか、一旦凍らせてから凍肉を生で食べることはよくあります。

・日本に帰ってきたとき、一番最初に何が食べたいですか？

美味しいお米が食べたいですね。

冬だ！冒険だ！北極サバイバルキャンプ　会場のみなさまから荻田さんへの質問！

北極のことを教えて！

・一番寒いときの温度は？
氷点下５６度です。

・北極の最低気温は何度ですか？その時はだかで外に出ても大丈夫ですか？
氷点下５６度です。一瞬なら裸でも大丈夫でしょうけど、本当に一瞬でしょうね（笑）

・北極と南極どちらが寒いのですか？
ざっくりといえば南極です。

・北極点の所で、方位磁石を使うとどうなるのですか？
方位磁石は北極点を指し示すわけではなく、磁力の極点というのが別にあります。地球内部のドロドロに溶けた流体の鉄やニッケルの熱対流や、地球の自転の影響で磁力を発生させます。その磁力が地表から鉛直方向に出入りする箇所が磁極と呼ばれ、北極には北磁極（ほくじきょく）があり、南極には南磁極（なんじきょく）があります。流体から発生するものなのでふらつくわけです。なので正確な地球の真北である北極点とはずれます。北極点で方位磁石を持つと、その北磁極の方向を指すと思ってください。ただ、正確には北磁極からも少しずれた位置を指すそうですが。では、北磁極に行って方位磁針を持ったらどうなるか？というと、理論上は自分の足元を指す、ということになります。

・地球はＮ極とＳ極が何年かおきに変わると言っていましたが、北極的、南極的、何か変わりはあるのですか？
何年かおきに、といっても平均すれば１００万年ごとくらいです。文明を持った人類がそのタイミングに出会ったことがないので、誰も答えは知りません。

・私には想像できない苦労をされながら北極を目指すことと思いますが、その苦労をしても北極へ行く魅力（？）は何なのでしょうか？
登山などと違ってやる人がほとんどいないことが面白さでしょうか。やる人が多ければ多いほど、効率的な手法や機能的な装備は自分の知らないところで誰かが作り上げてしまいます。それをお金を出して買って使う、利用することは安全で楽ですが、私はそれを考えて自分で作ることに面白みの一つを感じています。誰もやっていないからこそ、その先には手つかずの可能性がたくさんありそうだ、というワクワク感です。

・温暖化と言われていますが、氷が減った、亀裂が増えたなど実感したことはありますか？
３０～４０年前と比較すれば一目瞭然で海氷は減少しています。誰の目にも明らかです。ただ、これがなぜそうなっているのか？という明確な理由は誰にもわかりません。当然温暖化もその原因の一つではあるでしょうが、暖かくなったから氷が溶けました、というほど単純で簡単なシステムではないと思います。

イヌイットってどんな人？

・イヌイットってどんな民族？

日本人とも１～２万年くらい遡れば共通の祖先を持つ兄弟みたいな民族です。顔も似てるし、私もよくイヌイットに間違えられます。ただ、我々日本人が農耕を主体に生きてきたのに対して、イヌイットは完全な狩猟民族ですので、民族性は全く違います。この面積にどれだけ稲を植えたら半年後にこのくらいの収量になるだろうから、だからこれだけいま植える、といった具合に先を見越して逆算して行動するのが我々農耕民族です。しかし、狩猟民族というのは先の予定は立てられません。当てにしていた狩り場に毎年やってくる動物の群れが来ないかもしれない。それは動物主体の問題なので、人間が考えても解決しないことです。イヌイットは「明日のことは明日にならなきゃ分からない」という考え方ですが、日本人は「半年後にこうなるはずだから、いまこうしよう」という考え方です。ところが共通の近い祖先を持つ民族同士でもあるので文化的には近い物もあります。たとえばイヌイットにも「あやとり」があって、日本人と全く同じようなあやとりをします。しかもあやとりのことをイヌイット語で「アヤガァ」と言います。偶然でしょうか。

・イヌイット語は話せますか？

簡単な挨拶やコミュミケーションを取るくらいはできますが、流暢に会話できるわけではありません。

・イヌイットの人とは何語で交流するのですか？

地域によって差はありますが、例えばカナダ北極圏のイヌイットは英語が完璧に喋れるので、英語でやりとりします。グリーンランドに行くと「イヌイット語」しか通用しない地域も多いので、私が片言のイヌイット語で会話することもあります。カナダでは子供たちは学校に行けば英語で授業を受け、テレビはカナダ本土の英語放送を子供の頃から見ています。ただ、イヌイット語もまだまだ十分使っているので、家族としゃべる時はイヌイット語だったり英語だったり、ごちゃ混ぜな印象を受けます。

冬だ！冒険だ！北極サバイバルキャンプ　会場のみなさまから荻田さんへの質問！

こんなときどうするの？

・お風呂、トイレなどはどうするんですか？
お風呂は当然入りませんし、入れません。ずっとそのままです。トイレは上記と同じ。

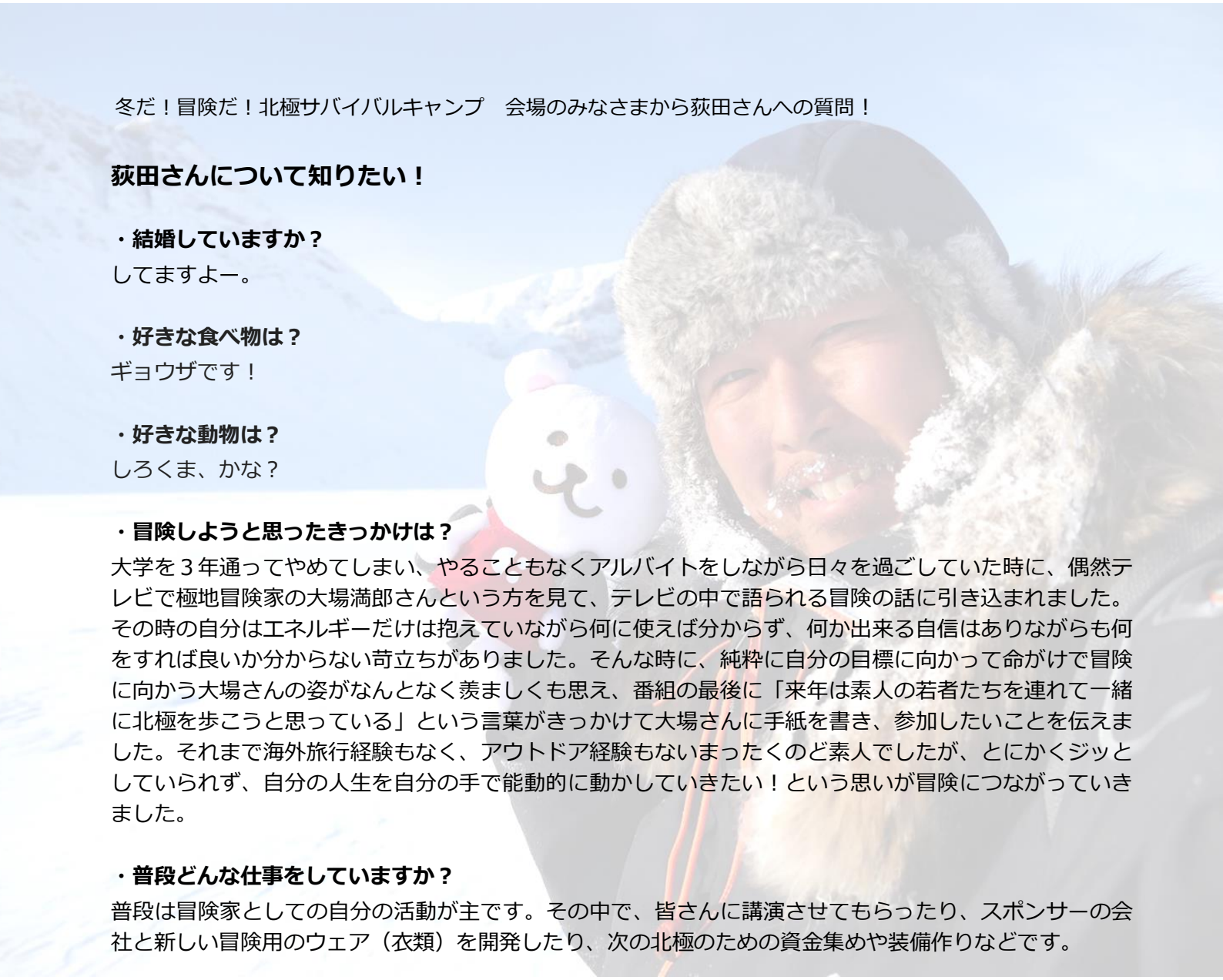
・環境保護のため、トイレの大・小はどう始末しているのですか？
その場に置いていきます。海氷上のため、夏になれば氷は溶けて全て海水に落ちていくのでその場に残るということはありません。人間の糞尿が環境に悪いということはありません。

・北極でカゼをひくことはありますか？
ありません。ひいたこともないです。

・寒さ対策どうしてますか？
一番は慣れることです。これは気合とかそういう話ではなく、冒険のスタートの前に準備をしている現地の村で極力外気に身をさらす時間を増やしていって、体を低温に順応させることが大切です。体は寒さに適応します。また、温度感覚は相対的に感じるものです。北海道でも秋頃のプラス５度は寒く感じますが、１月の一番寒い時にプラス５度になったらポカポカ陽気に思えます。プラス５度が寒いのか暖かいのか？ではなく、その時の体がどの気温に慣れていて、その温度をどう感じるか？が温度感覚です。

・忘れ物をしたらどうするんですか？
忘れ物をしたらどうなるか？は…困る！ということです。もし忘れ物をしても誰も届けてもくれないし、代わりの物もないし、誰もいないので借りることももらうこともできません。なので、忘れ物をしないことが大切です。

・実際忘れ物をしたことはありますか？
ありません。



冬だ！冒険だ！北極サバイバルキャンプ　会場のみなさまから荻田さんへの質問！

荻田さんについて知りたい！

・結婚していますか？
してますよー。

・好きな食べ物は？
ギョウザです！

・好きな動物は？
しろくま、かな？

・冒険しようと思ったきっかけは？
大学を３年通ってやめてしまい、やることもなくアルバイトをしながら日々を過ごしていた時に、偶然テレビで極地冒険家の大場満郎さんという方を見て、テレビの中で語られる冒険の話に引き込まれました。その時の自分はエネルギーだけは抱えていながら何に使えば分からず、何か出来る自信はありながらも何をすれば良いか分からない苛立ちがありました。そんな時に、純粋に自分の目標に向かって命がけで冒険に向かう大場さんの姿がなんとなく羨ましくも思え、番組の最後に「来年は素人の若者たちを連れて一緒に北極を歩こうと思っている」という言葉がきっかけて大場さんに手紙を書き、参加したいことを伝えました。それまで海外旅行経験もなく、アウトドア経験もないまったくのど素人でしたが、とにかくジッとしていられず、自分の人生を自分の手で能動的に動かしていきたい！という思いが冒険につながっていきました。

・普段どんな仕事をしていますか？
普段は冒険家としての自分の活動が主です。その中で、皆さんに講演させてもらったり、スポンサーの会社と新しい冒険用のウェア（衣類）を開発したり、次の北極のための資金集めや装備作りなどです。

・収入はどうなっているのですか？
講演依頼を頂いての講演料や、スポンサーとの契約料、メディアへの出演料、依頼される原稿の執筆、などです。自分の冒険活動から派生した収入以外はありません。

・家族は心配しませんか？
心配は当然しますよね。

・どんなトレーニングをしますか？
北極に行く前はランニングをしたり、下半身を中心にウェイトトレーニングをします。特別なことはしません。普通の体力作りです。

そのほか

・次はいつ北極に行くのですか？
いま北極に来てまーす！２０１７年３月

・これからも頑張ってチャレンジして下さい！応援しています。
ありがとうございます！